

PUBLIC RELATIONS

# 川越

広報川越 No.1000

平成13年2月10日

(毎月10日・25日発行)



三期目の就任にあたって：毎日の審判を受けながら 2

未来予想図21：新世紀に何を描きますか・4

2002FIFAワールドカップ™ 県民向けチケット申込書配布・11

子育て講演会：「見通しを持って育てる」・12

表通り裏通り 広報川越1000号：広報川越は、ことし50歳・20

川越市は、2002年に市制施行80周年を迎えます。



スマイルシティ・川越

<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/>

初登場する舟橋功一市長（1月22日）

# 三期目の就任に あたって

川越市長 舟橋功一



ここに、三期目の市長として引き続き重責を担うことになりました。

全国的にまれな、三十三万都市の連続無投票当選ですが、二期八年にわたる市民参加の市政を目指した地道な努力が市民の皆様の評価をいたいたものと確信しております。無投票となつたため、「市民の審判を受けなかつた」との論評もありますが、私としては、四年に一度、七日間の運動期間である選挙のみが市民の審判と考えることなく、毎日毎日、市民の審判を受けていいると思い、市民要望にいかに対処するかという不斷の努力が必要であると考え、行動してまいりました。

私は、平成五年の市長就任以来、目安箱の設置をはじめ、広聴課を新設するなど、陳情・苦情・意見等をあらゆる手段でくみ取り、ほとんどすべての要望等に市から直接返事を出すなどの努力をしてまいりました。その結果、これまで約一万五千件ものご意見・ご要望をいただき、市政の参考としております。そして、今でも毎日のように多

くのご意見・ご要望をいただいております。そのほかにも、市民意識調査を実施して市民の皆様の意向を把握してまいりました。少なくとも川越市役所は、私も職員も他の自治体の数倍の努力をしていると自負しております。

今回も、私はむしろ無投票ではなく、七日間であつても自分の今までの成果や政策を主張できる絶好の機会と考え、政策論争ができる候補者の出現を望んだわけであります。無投票という結果は、二十六万四百人という有権の方々が私を十分理解してくれださつた、そのあらわれと受け止めておられます。もちろん、今後も引き続き市民要望を十分に考慮し、選挙をした以上にりっぱな市政の実現に努めます。

「福祉充実、住みよい環境、歴史生かした（産業の）活性化」を基本とし、住むことに誇りを持つて川越づくりのために頑張る覚悟です。

いつそうの市政に対するご協力を願いし、ごあいさつといたします。

# 未来予想図21

時の流れ、社会の変化が加速しているようを感じませんか。それは、時代によつて異なり、時代もそれぞれの人の生き方によつて異なるものかもしだれませんが、人は、その慌ただしさと、うまくかかわりあつてどこに向かうか、未知のものには不安がありますが、時が流れても、社会が変わつても、共通するものがあることに気づくと何かが描けるように思われます。新世紀に何を描きますか？



川越市21世紀記念事業

川越の移り変わり100年 -むかしの勉強・むかしの遊び-

3月4日(日)まで (催中の休館日 = 2月13日(火)・19日(月)・23日(金)・26日(月))  
午前9時~午後5時 (入館は午後4時30分まで)  
大人=200円／学生・生徒=100円／児童=50円 \*20人以上の団体は割引料金  
くるわまち

開期  
開館日  
入館券

暁の鐘

都市になることを  
描いていました

都市化、そしてさらなる変化が

都市化が急速に進んだ二十世紀、その百年間には、自然環境、産業構造・土地利用などが大きく変化しました。人の移動が始まり、都会では過密、

地方では過疎、さらには一極集中、ドーナツ化現象などの問題が生じています。情報伝達、交通網の発展による移動時間短縮と物流の変化により地方の都市化も進み、田舎暮らしが再評価されるようになりました。それは、地方分権によつてさらなる変化が予想されます。

交通と流通、狭くなる地球

十九世紀に発明された自動車は、二

災害に強い都市づくり

本では一九六〇年代後半から大衆化。車両そのものの進歩、自動車関連産業への波及、道路・交通事情・流通の変化には目まぐるしいものがあります。しかし、車社会が築かれる一方、公害、

便利で快適な  
暮らしを描きます

電化によつて生まれた時間はどういく

川越に電灯がともるのは、埼玉県史

普及以前は、テントの照明、井戸水、手動ポンプで水を汲み、かまどでご飯を炊き、かまがま

かけて飯を炊き、たらいと洗濯板で洗濯するという生活でした。二十世紀後半には水道、電気炊飯器、洗濯機など

電化によつて生まれた時間はどうへ

川越に電灯がともるのは、埼玉県史

で最も早く一九〇四年のこと。電気

普及以前は、ランプの照明、井戸<sup>いのへ</sup>かわ<sup>かわ</sup>手動ポンプで水をくみ、かまどに釜<sup>かまきり</sup>かけて飯を焼き、たらいと洗濯板<sup>せんたくいた</sup>で洗濯するという生活でした。二十世紀<sup>じゅうせいき</sup>半には水道、電気炊飯器、洗濯機など

# 二十一世紀 振り返つて

日本の出来事  
世界の出来事

明治36	1903	明治37	1904	明治38	1905	明治39	1906	明治40	1907	明治41	1908	明治42	1909	明治43	1910	明治44	1911	明治45	1912	明治46	1913	大正1	明治47	1914	大正2	明治48	1915	大正3	明治49	1916	大正4	明治50	1917	大正5	明治51	1918	大正6	明治52	1919	大正7	明治53	1920	大正8	明治54	1921	大正9	明治55	1922	大正10	明治56	1923	大正11	明治57	1924	大正12	明治58	1925
水髮」 （毛利潤吉）	有個人動力飛行機初飛行／映 像電話所開設／川越に 県下で初めて電灯がつく 日露戰爭／セントルイス五 輪／真空管發明／新聞に寫 真掲載	特殊相對性理論提出／「吾 輩は猶である」（夏目漱石）	川越電氣鐵道開通／「破戒」 （島崎藤村）	國產自動車一號 T型フォード生産／ロント ン五輪	北極点に到達	大洪水、県下死者三百二十一 四人、流失家屋千六百七十九 戸／「二握の砂」（石川啄木）	南極点に到達／國產飛行機 初飛行	大正に改元／川越地方陸軍軍 特別大演習／タイタニック船 号沈没／ストックホルム五 輪	東上鐵道袋川越間開通／ 第一次世界大戰／バナマ運 河開通／桜島大噴火	私立川越圖書館創立（大正 七年町野）／第一回全國高 校野球選手權大會／「羅生 門」（芥川龍之介）	シヤネルスキー誕生 ロシア革命／「和解」（志 賀直哉）	米驅動／政黨内閣成立 新河岸川改修工事着工／國 際連盟発足／アントワーヌ 五輪／第一回東都大學東京 箱根駅伝／第一回国勢調査 川越市誕生（県で最初の市 制施行）	関東大震災／ルマン始 る／「山椒魚」（井伏鱒二）																																												

が人間の仕事を代行し、手間と時間を短縮・省略することになりました。生じた余裕は、さらなる仕事に費やされ、経済成長を支えましたが、やがて余暇・娯楽の時間も生まれます。

庫・洗濯機・テレビ（白黒）が「三種の神器」、一九六〇年代後半にはカラーテレビ・自家用車（カー）・クーラーが「三C」とされ、標準的な家庭の象徴に考えられました。その延長にある大

量生産・大量消費は、便利な暮らしを実現させましたが、それによつて思ひやりの心が薄れたようにも思われます。

## 生活感覚が変わつても

即席めんに代表されるインスタント 感覚が普及したのも二十世紀。冷凍・レトルト・乾燥などにより、食品の保存が便利になつたほか、手間をかけずに本物に近いものを再現することができるようになり、食生活が変化しました。そして、生まれた本物志向・高級

生活感覚が変わつても



川越の移り変わり100年－むかしの勉強・むかしの遊び－ 市立博物館特別展示室  
川越の移り変わり100年ホームページ <http://www.kawagoe.com/kzs/100/>

参考：20世紀の様子がわかる施設  
詳しくは、各館にお問い合わせ、または、各ホームページをご覧ください。

■江戸東京博物館 墨田区横綱1丁目4-1 ☎03-3272-8600  
■江戸東京たてもの園 小金井市桜町3丁目7-1 ☎042-388-3300

志向は、物不足の戦後まもなくに比べてぜいたくなものになつています。商店は、品ぞろえの豊富な大型店の進出、さらには価格競争が繰り広げられ、小売りの形態も変化。また、生活時間に合わせたコンビニエンスストアは二十四時間営業を実施しています。部分が減り、依存傾向の高まつた消費者は、悪徳商法の被害にあつたり、石油危機・米不足において必要以上の不安を募らせ、買い占めに走つたりするなど、未成熟な面をのぞかせます。

思ひどおりにならないときに「キレ」やすくなつた現代人。従来の価値観では理解できない行動が事件に発展する場合も多く、それは、これまで描いてきた快適な暮らしから遠いものです。インスタント・コンビニエンスが日常的になつても、時間と手間をかけなければできないものはあります。子どもと大人、それぞれが育つ過程で協力しさまざまなことを乗り越えるのもその一つではないでしょうか。忙しさの反動として心が求める「ゆとり」「安らぎ」「いやし」「和み」。二十一世紀に穏やかさが望まれます。

環境は地球規模で  
描いてください

環境への負荷を抑える循環型社会

かかりつけ医を持つこと、十分な運動、日々の食生活から健康維持を心がけることなどが挙げられます。

# 環境は地球規模で 描いてください

と、ごみ収集車が連なつていました。四機ある投入口の二機を閉鎖し、ピットに投入されたごみを閉鎖した投入口の裏側にクレーンで積み上げ、燃焼量を調整しつつ、適正な燃焼を最優先にフル稼働していました。炉の負担を考えると余裕のある運転が望ましいのですが、運ばれるごみは待つたなし。来

年度からプラスチックを分別し、専門の処理を予定しています。施設の維持には、各家庭の協力も不可欠。分別、資源化への協力をお願いします。

「三種の神器」「二二〇」のうち冷蔵庫・テレビ・洗濯機・エアコン（クーラー）については、二〇〇一年四月から実施される家電リサイクル法の対象製品になります。エネルギーの消費を考えるとき、循環型社会への移行はあらゆる分野の基本。私たちが生きていくかぎり排出され続ける温室効果ガスを抑え、地球環境に与える影響を最

**家庭から地球へつながる環境**

小限にする生活は、二十世紀から二十世紀に贈る伝言です。

一九六〇年代ごろまでは、入間川で水泳ができました。公害対策を必要とするころに川は遠ざかり、現在、親水事業により少しほとんどは身近になつたものの、水泳する光景を見ることはできません。近年の河川の水質悪化は、生活排水の影響が大きく、改善には各家庭での取り組みを必要としています。

世界中のほとんどの地域に足を踏み入れる人間は、地球上のいたるところにその影響を及ぼしています。先ごろ、生物の聖域であるガラパゴス諸島でタンカーが座礁し、自然への影響が心配されています。油類は、人間の生活に用いられるものだけに考えさせられる事故。人類の発展は、そのエネルギーの消費によって成り立つきました。エネルギーの転換は、すぐに解決できる課題ではありませんが、供給の確保と安全性とともに環境に及ぼす影響を無視することはできません。

川越市では、実現可能なことから無理なく行うという考えに基づき、節電による省エネルギーおよび太陽光発電装置の公共施設への設置と補助による新エネルギー転換を行っています。こうした取り組みが少しずつでも広がることが期待されます。

人間の生活によつて著しい変化が及ばないことが自然の姿。多くの生物が

昭和29年 1954年 1955年 1956年 1957年 1958年 1959年 1960年 1961年 1962年 1963年 1964年 1965年 1966年 1967年 1968年 1969年

1954	昭和29	市営のし尿処理開始／世界恐慌／プロレス中継開始／「ゴジラ」
1955	昭和30	三種の神器／太陽の季節／（石原慎太郎）
1956	昭和31	日本が国際連合に加盟／メルボルン五輪／「金閣寺」（三島由紀夫）
1957	昭和32	人工衛星の打ち上げ／東京タワー完成／長嶋茂雄デビュー／即席めん／自動電気釜
1958	昭和33	国民年金発足／伊勢湾台風／川越市が町名地番整理の実験都市に指定される／カラーテレビ本放送／安保闘争／所得倍増計画／ローマ五輪／アフリカの年
1959	昭和34	下水道敷設／有人人工衛星（地球は青かつた）
1960	昭和35	市内（川越局）自動式電話に切り替え／キューバ危機／日本がカメラ生産世界一／みゆき族
1961	昭和36	市内のごみ定時収集開始／入間川ブーム／ケネディ暗殺／大鵬が六場所連続優勝
1962	昭和37	市民会館完成／東海道新幹線開業／東京五輪／海外旅行自由化／カセットテープ
1963	昭和38	ベトナム戦争（～）／電子レンジ／シンザン五冠
1964	昭和39	滝の下終末処理場運転開始／航空機事故続発／3C／「龍馬がゆく」（司馬遼太郎）／ビートルズ来日
1965	昭和40	埼玉国体開会（バレー・ボーラ・準硬式野球の会場）／公害対策基本法公布／EC発足／ミニスカート
1966	昭和41	小学校にブルー建設／都市計画法改正／三億円強奪事件／大学紛争激化／メキシコ五輪／（二〇〇一年宇宙の旅）
1967	昭和42	学校給食センター完成／月面着陸／ブッシュホン発売／東名自動車道全線開通
1968	昭和43	
1969		
昭和44		

共存する地球は人間だけのものではありません。時には、我慢が必要になることがあるかもしれません。しかし、地球市民の皆さんのが家庭から取り組むことによって環境保全を実践できるのです。

# 世界のつながりが 描けますか

郷土を知ることが関係を築く

図書館創設活動、郷土資料の復刻を行つた安部立郎さんが設立した私立図書館を吸収し、一九一八年に川越町立図書館が開館しました。二〇〇〇年三月末現在、県内最大規模の市立図書館として約五十七万六千冊の蔵書があり、利用者の声を反映して霞ヶ関地区と川越駅東口に分館（複合施設）の建設が予定されています。

辺自治体との相互利用も行われている。今日。そこで暮らす人が郷土を知ることは、同郷の人と魅力を分かち合い、異なる郷土の人に魅力を伝えられることになります。それは、人と人の関係を築くために役立つものです。

## メディアとコミュニケーション

町村があります。川越町は、一九二二年に仙波村と合併し、埼玉県内初の市制を施行。一九三九年、西に隣接する田面沢村・古谷村・南古谷村・高階村・福原村・大東村・霞ヶ関村・名細村・山田村の九村を合併し、ほぼ現在の市域を形成しました。新世纪を迎える人口は、およそ三十三万人。二〇〇二年には市制施行八十周年を迎えます。

市には、国が指揮・監督して行つていい  
た福祉・保健・都市計画などの事務を  
市独自で行える権限が移され、地域の  
特性を踏まえて身近な事務を決定する  
ことができるようになります。これに  
より、地方自治の独自性が高まる半面、  
それを支える地域自治・住民自治の重  
要性が増すことになります。自治は、み  
みずからのことのみずからが決め、み  
ずからが行うこと。そして、自治を行  
うものどうしが互いに協力した関係で  
社会が成り立ちます。

川越市の魅力は、歴史と伝統によつ  
て築かれた文化財、人の営みを感じる  
町並み景観、郷愁を誘う横町、受け継  
がれてきた祭りなど。人がかかわり、  
時間をかけたものには、心が求めるも  
のがあります。

る安らぎを与えるものでした。そうした表現ができる川の特性を大切にしたいもの。時間が流れても変わるものと変わらないもの、新しく生まれるものなどが要素になり、新旧と一緒に同時に独自の要素になります。偉い人は犯します。偉い人は惨な災害です。二十九世紀が国木田独歩されたのは「武藏野に足の向く方とを苦にし



る安らぎを  
与えるもの  
でした。そ  
うした表現  
ができる川  
越の特性を  
大切にした  
いもの。時  
間が流れ  
ても変わるも  
のと変わら  
ないもの、  
新しく生ま  
れるものの  
どが要素に  
なり、新旧の調  
と同時に独特

大衆への情報伝達分野は印刷にラジオ・テレビの電波媒体が加わり、通信分野は電信に有線放送・電話・ファクシミリ・携帯電話が加わりました。二十世紀末には、それらが複合し、分野を超えて発展しました。

テレビ放送の開始当初は店頭、街頭、テレビを持つ家庭を訪ねて見せてもらう状態でした。そこには、ある種の連帯感があつたかもしれません。普及により家庭の主役はテレビになり、社会はテレビの情報を中心として成り立つようになります。さらに加わったインターネットは、媒体の可能性を拡大。一方、情報を得るための携帯端末器は生活の一部になりつつあります。

そうした媒体は、社会の流行をつくるとともに生活様式などにも変化を生みます。それは、表現の自由、知る権利などの意識もあいまつて人間関係に及ぼす影響が問題になることもあります。それらは、コミュニケーションの道具である半面、コミュニケーションを阻害する複雑な要素を持ち、暮らしへさまざまな課題を投げかけます。

### 情報社会の中の人間として

一九九五年から個人のインターネット加入者が急増。マスメディアと同様にだれでも情報発信が可能になり、人が世界中につながった情報網の中に

インターネットは、検索とリンクによって瞬時に情報を手に入れることができます。子どもからかかわる機会があり、今後、パソコンの苦手な人にも広がることを含め、さらに大きなメディアに成長する可能性があります。しかし、情報の信ぴょう性、秘密保持の安全性、偏向した価値観から生じる事故・事件などもあり、情報に対する良識と判断力が求められます。また、情報提供の姿勢、内容、サービスなどが発信者を判断する材料にもなり、同業種の競争が加速します。

インターネットにより、地域的な差は少なくなります。世界規模で標準化されるものかもしれませんのが、どんなに普及しても、一般には人間的な広さの生活地域が残るのではないかでしょうか。国際化に必要なことは自国の文化。地球市民である半面、交流には地域性や独自の文化への回帰も再認識されるようになります。

## まちづくりは 夢を描くことから

個性ある地域をみずからつくる

昭和  
1988 平成  
1989 平成  
1990 平成  
1991 平成  
1992 平成  
1993 平成  
1994 平成  
1995 平成  
1996 平成  
1997 平成  
1998 平成  
1999 平成  
2000 平成  
2001 平成

13	元	63
12	県宮川越水上公園開園／瀬戸大橋開通／ソウル五輪	（村上春樹）
11	崩壊／消費税導入／児童のデジタルカメラ発売／キッチン」（吉本ばなな）	観条例施行／ヘルリンの壁
10	市立博物館開館／防災宣言無線放送開始／雲仙・普賢岳噴火（～91）／一・五七ショック／東西ドバイ統一	崩壊／雪灾
9	川越駅東口再開発事業終了／駿田歩道橋開通／激闘戦争／ソ連解体／アハルトヘイド開通諸法廃止	一一番街の電線類地中化／学校週五日制／バブル経済の崩壊／地球サミット開催／バルセロナ五輪
8	埼玉川越総合地方卸売市場開業／関西国際空港開港／米不足／プレイスティーシヨン	埼玉県／阪神・淡路大地震
7	川越市総合福祉センター「ブン／P-S法施行／個人のインターネット利用急増	災／P-S法施行／個人のインターネツト利用急増
6	第二次川越市総合会計画／残したい日本との音風景白選／時鐘の鐘／1%節電運動開始	JR第一ネット／阪神・淡路大地震
5	情報公開制度／三池炭坑閉山／東京湾横断道路開通	情報公開制度／三池炭坑閉始／アーランカ五輪
4	ブズマン制度／三池炭坑閉山／東京湾横断道路開通	第二次川越市総合会計画／残したい日本との音風景白選／時鐘の鐘／1%節電運動開始
3	校週五日制／バブル経済の崩壊／地球サミット開催／バルセロナ五輪	JR第一ネット／阪神・淡路大地震
2	川越駅東口再開発事業終了／駿田歩道橋開通／激闘戦争／ソ連解体／アハルトヘイド開通諸法廃止	災／P-S法施行／個人のインターネツト利用急増
1	ISO14001取得／総合保健センター「オーブン」／重伝建地区選定／地方分権一括法成立／「ファーストストラップ」（宇多田ヒカル）／歐州通貨統合／コンピュータ二〇〇〇年問題	情報公開制度／三池炭坑閉始／アーランカ五輪

年	事件
昭和63 1988 平成元	県宮川越水上公園開園／瀬戸大橋開通／ソウル五輪観戦 消費税導入／児童のデジタルカメラ発売／キッチン（吉本ばなな）
1990 平成2	市立博物館開館／雲仙・普賢岳噴火（～91）／一・七五三無線放送開始／雲仙・普賢岳噴火（～91）／一・七五三無線放送開始／雲仙・普賢
1991 平成3	ヨック／東西ドッグ統一戦争／ソ連解体／アハルトヘイト関連諸法廃止
1992 平成4	川越駅東口再開発事業終了／駿田歩道橋開通／邊境崩壊／地球サミット開催／バラセロナ五輪開業／関西国際空港開港／埼玉県越総合地方卸売市場
1993 平成5	校週五日制／バブル経済の崩壊／ソ連解体／アハルトヘイト開業／関西国際空港開港／埼玉県越総合地方卸売市場
1994 平成6	米不足／ブレイスティショング／川越市総合福祉センター「オーブン」／阪神・淡路大地震
1995 平成7	災／P.L.法施行／個人のインターネット利用急増
1996 平成8	第二次川越市総合計画／残したい日本のお風景百選に「時の鐘」／1%節電運動開始
1997 平成9	始／アランタ五輪情報公開制度、川越市オンライン／東京湾横断道路開通／山／東京湾横断道路開通／校内暴力増加／もののは姫
1998 平成10	ブズマン制度／三池炭坑開拓／滋災害（長野冬季五輪／10・8・28集中豪雨災害）／激
1999 平成11	ISO14001取得／総合保健センター「オープン／重伝建地区選定／地方分権一括法成立／「ファーストランプ」（宇多田ヒカル）／歐州通貨統合／コンピュータ二〇〇〇年問題
2000 平成12	介護保険開始／携帯電話が据え置き電話を超える／シナリオ五輪／火山噴火、地震多発 二十世紀到来
2001 平成13	

1970	昭和45	川越市が文化庁の文化財愛護モデル指定地区になる／東日本万国博覧会開催／カラオケ登場／ジーンズ／公害関係法制定・改正
1971	昭和46	伊豆沼冒険の森植樹／関越自動車道（練馬・川越）開通／変動為替相場制採用／カップめん
1972	昭和47	市役所新庁舎完成／札幌冬季五輪／沖縄返還／日中国交回復／ミュンヘン五輪
1973	昭和48	第四次中東戦争／石油危機／巨人V9
1974	昭和49	ビニエンスストア
1975	昭和50	ビデオデッキ発売／ワシントン条約（野生生物の保護）／国際婦人年
1976	昭和51	モントリオール五輪／『宅急便』／『限りなく透明に近いブルー』（村上龍）／「およげたいやきくん」（子門真人）
1977	昭和52	昭和53 蔵造り資料館開館／パソコン発表／「ヌターオーブ」西清掃センター運転開始／成田空港開港／ネズミ講禁止法／スペースインベーダー墨打
1978	昭和54	国際児童年／ウォーカマン／イラン・イラク戦争／モスクワ五輪／王貞治八六八本ノサラ金被害／レンタルビデオ
1979	昭和55	国際障害者年／エイズ認知／コンパクトディスク販売
1980	昭和56	川越市総合計画／ファミコン／クワガタ／王貞治八六八本ノサラ金被害／レンタルビデオ
1981	昭和57	業／日航機御菴鷹山に墜落／青空トunnel開通
1982	昭和58	川越線全線電化／埼京線開通／川越セントラル完成／三原山噴火／チエルノブリ原発事故／男女雇用機会均等法施行
1983	昭和59	市立図書館新築／ロサンゼルス五輪
1984	昭和60	川越線全線電化／埼京線開通／国鉄分割民営化／電
1985	昭和61	窓口事務オンライン化／東上線と有楽町線が相互直通
1986	昭和62	運転／昭和



## 就学にかかる費用を援助します

経済的理由で、小中学校への就学が困難な家庭に学用品・給食・校外活動・修学旅行・医療費など、就学にかかる費用を援助します。該当する家庭は、お



子さんが在学する学校または教育財務課（市役所本庁舎五階）に申請してください。また、現在援助を受けていて、新年度も引き続き援助を希望する場合も申請が必要です。

### 対象となる家庭

- ①生活保護法による保護が停止または廃止になっている
- ②児童扶養手当法に基づく児童扶養手当を受けている
- ③保護者の職業が不安定で収入

## 家庭児童相談室子育て講演会

家庭児童相談室では、「見通しを持つて育てる」をテーマに

子育て講演会を開催します。当日、直接会場にお越しください。

日時：3月3日(土)・午後1時30分～4時

講師：さいたま教育文化研究所副所長・齋藤晴雄さん

\*模擬店（切り花・地卵ほか）もあります。

問い合わせ：農業ふれあいセンター ☎ 26-65552

会場：総合保健センター

定員：先着百人

経費：無料

\*保育室の利用を希望する方は、二月二十八日(水)までに直接、福祉課に申し込んでください。

問い合わせ：福祉課児童福祉係 ☎ 内線2530

会場：総合保健センター

定員：先着百人

経費：無料

\*保育室の利用を希望する方は、二月二十八日(水)までに直接、福祉課に申し込んでください。

問い合わせ：農業ふれあいセンター ☎ 26-65552



## 新河岸川流域フォーラム開催

新河岸川流域の総合治水対策の一環として、新河岸川流域（新河岸川・黒目川・白子川・柳瀬川・砂川）に住んでいる方を対象としたフォーラムを開催します。



内 容  
新河岸川流域を四つの視点から  
川と流域に学ぶ社会

昨年、前期・後期に分けて実施した布類拠点回収モデル事業の結果を報告します。

問い合わせ：河川課維持管理係 ☎ 内線3142

会場：清瀬市民センター（清瀬市元町一丁目六一六・☎ 424-93-4011）

日時：2月18日(日)、午前9時30分～午後4時

問い合わせ：河川課維持管理係 ☎ 内線3142











## 妻の退職記念カナダへの旅

田口哲夫 (68歳・仙波町1丁目)

平成12年7月1日より9日まで、初めての長旅。ケベックシティではお城のようなホテルに泊まり、朝の散歩はゆったりと流れる大きなセントローレンス川をながめながら、町全体が世界遺産となる町を散策。オタワより大陸横断列車にて、広大な牧場風景を楽しみながらトロントへ。バスでナイアガラフォールズへ、展望台よりナイアガラの滝を見、翌日は船からの滝を見てスケールの大きさに感激。世界遺産のカナディアン・ロッキーでは、ロッキーの宝石といわれるレイクルイーズへ。前日の残雪で、山々がひときわ湖面にはえて美しい。アサパスカ氷河では、厚さ300mの氷の上を散策。ビクトリアでは妻の好きな花が、町に公園にあふれてる。

日本の国土の27倍と広い、自然を大切にするカナダの町には、ゴミ・空き缶ひとつなく、列車内や公園など公共の場は、アルコール類は禁止。ひとりひとりがゴミを持ち帰れば町がきれいになる現実を見る。百聞は一見にしかずと妻とともに感動の連続の旅であった。

## イラストコーナー



募集 「旅の空から」(400字程度)  
「イラストコーナー」  
〒350-8601 川越市役所広報室

## まちのできごと

川越市の面積は109.16km<sup>2</sup>

# トータル 109/パレット

## 歩いて楽しい元日の小江戸



新世紀の幕開けとなったことしの元日、「歳のまちを歩こう 小江戸ウォーキング」が開催されました。毎年行われている「川越ウオーカソン大会」が21世紀を記念して、一味違った形で行われたものです。1,175人の参加者は、自分の体力や体調にあわせて4キロから6キロのコースを選択。門松が並ぶ一番街や菓子屋横丁などを、元気に歩きました。

## やわらかな光、ゆめあかり



12月24日～1月8日、「川越ゆめあかり～窓あかりの美しい街・川越～」として、一番街周辺がライトアップされました。街に住む人々の生活が感じられるようにと考えられた明かりは、クリスマスイルミネーションのような派手さはありませんでしたが、窓から漏れる光や、道に置かれた小さなあんどんが、いつもとちょっと違うまちを演出しました。

## 百十数年ぶりに復活、湯立祭



1月14日、古尾谷八幡神社(古谷本郷)で、とだえていた「湯立祭」が百十数年ぶりに行われました。沸騰した釜の湯を笛で振りまき、厄よけをする神事で、昨年4月に「湯花用大釜」が市の文化財に指定されたことをきっかけに復活の準備を進めてきたものです。「地元の方もやってみて感激したようです。今後も続けます」と、宮司の新井雄治さん(71歳)。

## さつまいものヘビは、遊び心いっぱい



さつまいもを使った「新春変わりいも盆栽展」がサツマイモ資料館(小室)で行われ、こどしの干支、巳(蛇)にちなんだ作品が11点展示されました。作者の佐藤光興さん(67歳・小仙波町2丁目)は「つるをうまく生かして表現。いもに親しみを持ってもらえた」と話します。訪れた方からは「大きいもやユニークな蛇にびっくり」と感嘆の声。

## ティーボールって、どんなスポーツ?



1月21日、オアシスで、障害の有無に関係なく楽しめるスポーツ、ティー・ボールに67人が挑戦しました。野球に似たスポーツですが、やわらかいボールをティー(打球を乗せる台)の上に置いて打つところに特徴があります。思いつきバットを振ると、ストレスも解消できそう。勢いよく打球が飛ぶと、参加者から大きな歓声が上がっていました。

**■原点は、創刊号に**  
二十世紀、私たちの生活は飛躍的に便利になりました。また情報化が進み、次から次へと情報があふれ、数か月で「それ、もう古いよ」と言われることもしばしばです。

広報紙も、時代に合わせてその姿を変え、現在はパソコンで編集しています。コンピュータが各家庭に一台以上あるような世の中になつたら、広報紙もインターネットで発信するようになるのかもしれません。しかし、たとえそうなつたとしても、変わらないものがあります。

それは、冒頭で紹介した昭和二十六年の「市政だより」発刊にあたつてのことば。市民のための市役所、市民のための市政、そして市民と行政のかけ橋になる広報。五十年たつた今も変わらぬ広報の原点が、そこにあります。

**■私たちの距離**  
では、現実問題として、「広報川越」は、皆さんの広報紙になつているのでしょうか。

「川越市政だより」が百号を迎えるときに行われた座談会の中で、「市の区域が広範になります」と、市役所と市民の距離が遠

くなり親密度が失われて、心の結ばれた行政が得られなくなります」という発言がありました。現在の人口は約三十三万人。この「市民と行政の距離」は、私たちの大きな課題になっています。それで、読むことで少しでも川越が好きになれるような広報紙を作つていけたら……。その「距離」も縮まっていくのではないかと思っています。

まちづくりは行政だけではできません。それは、広報紙も同じです。皆さんの声、情報が何より大切です。もちろん、投稿だつて大歓迎。新たな世紀、皆さんに愛される広報紙になるよう、これからも頑張ります。

思えば点字広報が発行されたのは、二十八年以上前のことでありました。そのころ広報を担当しておられた戸口さんを忘れる事はできません。調査・企画・立案を手がけて、昭和四十七年に点字広報川越一号を発行、市内の八十余名の視覚障害者へ送付され、市の情報サービスが開始されました。まだその当時は、庁舎が現在の駐車場にあつたころでした。昭和四十七年に広報が点字にされたのは、全国的にも早い取り組みでした。その後、市の朗読ボランティアの方々によって月二期広報は二巻のカセットテープに音訳され、視力障害者へ送られるようになり、市の情報サービスが充実してまいりましたことを心より喜んでおります。

### ● 古い広報を見ました

吹浦春夫 (69歳・岸町一丁目)

広報編集部には、過去発行の広報が全部資料として保存していると存じますが、このたび広報川越の前身「市政だより」の昭和三十二年・三十三年のものが見つかりました。四十四年も前のもので、保存状況も悪いのですが、もし何かの参考になればと同封いたしました。四十年後の現在、人口は三倍、世帯数は六倍、そして広報のページ数は十五倍に飛躍しております。「広報川越」のますますのご発展をお祈り申し上げます。

### \* 広報川越から

広報室では、過去の広報紙を保存していますが、百号までの中でいくつか抜けてしまっているものがあります。今回吹浦さんが送つてくださった広報紙のうち、九一号は広報室にないものでした。貴重な資料をありがとうございました。広報室では、次の広報紙を探しています。持つている方は、ぜひご連絡ください。

▼二号・一四号・三九号・四二号・四五号・四八号・四九号・五〇号・五二号・七七号・八八号・八九号  
また、今回のこの記事や、広報川越への感想をお聞かせください。



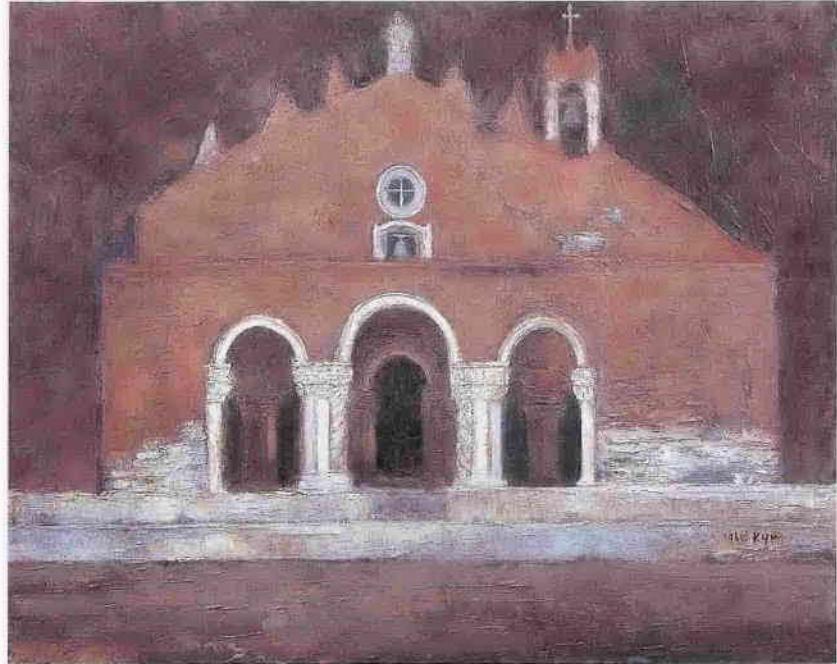
### お便り紹介

広報川越九九四号(平成十二年十一月十日発行)の「デュエット」で募集した、「広報川越にまつわる思い出や、今後の広報川越に望むことなど」にいただいたお便りの一部を紹介します。

斎藤誠之助 (73歳・宮下町二丁目)

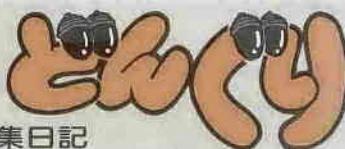
思えば点字広報が発行されたのは、二十八年以上前のことでありました。そのころ広報を担当しておられた戸口さんを忘れる事はできません。調査・企画・立案を手がけて、昭和四十七年に点字広報は二巻のカセットテープに音訳され、視力障害者へ送られるようになり、市の情報サービスが充実してまいりましたことを心より喜んでおります。

# 風の渡る大地 11



赤い教会 100F 1965

個展「ヨーロッパを主題として」後、「赤い教会」「白い教会」を第二十九回新制作協会展に出品。この年から、それまでの久太郎に代わり求一朗の雅号を用いる相原さんは、二度目の新作家賞を受賞するものの、仕事の方向がつかめなくなります。年末に中南米を訪ね、翌年、個展「中南米の画旅から」を開きますが、南米を描いた作品は少なく、求めるものに出会えなかつたのかもしれません。しかし、民族色あふれる地域は、画家に「風土」を意識させたのではないでしようか。



## 編集日記

新世紀を迎えるにあたり、1000号を契機として紙面をリニューアルしました。主な変更点は、一部を除き、全体に文字を大きくし、読みやすさの向上を図ったことです。そのままでは従来の10%~15%のページ増が考えられるため、これまで以上に簡潔でわかりやすい記事の作成を心がけています。また、より効果的な紙面づくりのため、表紙ほか、部分的に変更を施しました▶広報川越998号の表紙の撮影場所について尋ねられ、関心を持って頂けたことをうれしく感じました。半面、情報をいただいて撮影に出かけることもあります。被写体に接する機会が多く、よく知っている方ほどその魅力をご存じのよう。通勤・通学・買い物などの際に見かける景色、お気に入りの場所などがありましたらお知らせください▶広報は、Public Relationsを訳したことば。広報紙の役割である「市民と市政とをつなぐ」を果たすため、これからも皆さんに愛される「心のかよう広報」をモットーとし、編集に努めていきます。

## TV わが街川越 番組ガイド



インタビューに応じる舟橋市長（1月22日・市長室）

**新世紀の小江戸川越**  
新しい世紀、新しい年を迎えた川越のまち。無投票当選で三期目を迎えた舟橋功一市長が、市政への抱負を語るほか、元日の婚姻届提出・小江戸ウォーキング・川越市成人式などの様子を紹介します。

## テレビ埼玉 (38ch)

2月17日(土)／午前10時20分～10時30分  
2月18日(日)／午後 5時30分～ 5時40分

## 川越ケーブルテレビ (15ch)

2月16日(金)まで \*2月17日(土)からは「わが街川越20年のあゆみ」を放送予定です。  
午前9時30分～・午後0時30分～・午後5時30分～・午後8時30分～・午後11時30分～

## テプロケーブルテレビ (9ch)

2月25日(日)～3月3日(土)  
午前6時30分～・午後0時30分～・午後4時30分～・午後7時30分～・午後9時30分～

\*変更になることがあります。あらかじめご了承ください。

## 広報川越 1000

昭和26年4月20日創刊

発行／平成13年2月10日（毎月10日・25日発行）

発行人／川越市長 舟橋功一

編集／広報室 〒350-8601 埼玉県川越市元町1丁目3-1 ☎0492-24-8811内線3522

印刷／株式会社印刷所